

キャラクター名
メリッサ・クララ

プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー		ワークス	FHエージェントA	カヴァー	大学生
	サラマンダー					
オプション			年齢	21	性別	女
覚醒	感染	衝動	破壊	初期侵食率	30	%
出自	親の理解	経験	喪失	邂逅	復讐	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	34
肉体	4	1	1			6	行動値	4
感覚	0		1			1	(非装備時)	4
精神	2		0			2	戦闘移動	9
社会	2		1			3	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	11		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志	2		調達	2	
運転:			芸術:			知識:レネゲイド	2		情報: FH	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:裏社会	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				
エターナルブレイク	白兵	11r+9	6	46		1+2+5+6+7。装甲無視。C値8。
イクスプロージョン・デュ・ヘイン (100↑)	白兵	15r+9	6	52		1+2+5+6+7。装甲無視。C値7。
エターナル・デュ・ヘイン (160↑)	白兵	18r+9	6	58		1+2+5+6+7。装甲無視。C値7。

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ: 情報屋	
コネ: 情報収集チーム	
思い出の一品: 指輪	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ	消費
復讐者	P	N		
ジーク (YE)	P 有為	N 不安		
*最終魂畜神火(ブラッドストーカー) (OR)	P 執着	N 憎悪		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 10 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
氷炎の剣	5	3	マイナー	至近	自身	自動	—	
効果:	種別・技能: 白兵、命中: -2、攻撃力: + (LV+6)、ガード値6、射程: 至近の武器のデータを作成し、装備する。							
地獄の氷炎	7	2	マイナー	至近	自身	自動	リミット	
効果:	【氷炎の剣】 攻撃力orガード値+ (LV×3)。							
氷の回廊	1	1	マイナー	至近	自身	自動	—	
効果:	戦闘移動を行う。移動距離+ (LV×2) m。							
終末の炎	2	2	マイナー	至近	自身	自動	80↑	
効果:	(LV×5) 点までHP消費。攻撃力+ (消費したHP)。							
コンセントレイト: サラマンダー	2	2	メジャー	—	—	—	—	
効果:	C値- (LV) ※最大値7							
炎の刃	7	2	メジャー	武器	—	対決	—	
効果:	<技能: 白兵>攻撃力+ (LV×2)。							
結合粉碎	5	4	メジャー	—	—	対決	ピュア	
効果:	<技能: シンドローム>ダイス+LV個。装甲無視。							
氷盾	3	2	オート	至近	自身	自動	—	
効果:	ガード値+ (LV×5)。							
熱感知知覚	1	—	メジャー	至近	自身	自動	—	
効果:	逃がさないわよ。 (<RC>)							
凍結保存	1	—	メジャー	至近	単体	自動	—	
効果:	他のヤツに迷惑かけるのだけは嫌よ。							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

リッサ: 気高い、立派な、真実
クララ: 輝く

メリッサ・クララは3人姉妹の次女としてドイツで生まれ、首都ベルリンで育った。研究職に就いていた両親は多忙であったが、両親はメリッサたちのことを深く愛していたし、メリッサたちもまた両親のことを愛していた。正にメリッサは両親や2人の姉妹とともに普通の幸せな生活を送っていた。

しかし今から数年前、一人の男によって家族の生活は唐突な終わりを告げることになる。当時、メリッサは17歳。メリッサが学校から帰宅すると、自宅から夥しい量の血が奥の部屋から玄関にまで流れ出ていた。彼女が慌てて部屋に駆け込むと一人の男によって両親が斃られていた。その男はメリッサを目にすると、慌てた素振りを見せることなく家を後にした。父親からの呼びかけによって初めて、両親にまだ息があることを知ったメリッサは何があったのかを聞くと、あの男は“ブラッドストーカー”というUGNのエージェントだということと、自分たちはもう長くはないことを知らされた。死の間際に両親は、母親から指輪を、父親からは母親と共同で作った最高傑作らしき一つのドライバーをメリッサに手渡した。メリッサがそれを手に取ると同時に彼女の体に異変が起き、このときにメリッサ・クララはレネゲイドに感染した家が炎に包まれた。その炎はメリッサの復讐心が強まれば強まるほど勢いを増し、最終的にその炎でメリッサは家を燃やした。それはメリッサの覚悟の表れであり、退路を断つという意味表示の形だった。

以後は両親が遺した伝手を利用してFHのエージェントとなり、日本の大学に進学することを機に渡日し、日本のFHセルに所属を変える。全ては“ブラッドストーカー”に自らの手で引導を渡してやるために。